「東洋印刷株式会社」

優先順位	社会人基礎力12の能力要素
第1位	主体性
第2位	情況把握力
第3位	実行力
第4位	発信力
第5位	課題発見力
第6位	働きかけ力
第7位	柔軟性
第8位	計画力
第9位	傾聴力
第10位	創造力
第11位	規律性
第12位	ストレスコントロール力

「株式会社アジェンダ」

優先順位	社会人基礎力12の能力要素
第1位	主体性
第2位	傾聴力
第3位	ストレスコントロール力
第4位	規律性
第5位	実行力
第6位	働きかけ力
第7位	発信力
第8位	情況把握力
第9位	創造力
第10位	柔軟性
第11位	計画力
第12位	課題発見力

「ホーマック株式会社」

優先順位	社会人基礎力12の能力要素
第1位	主体性
第2位	実行力
第3位	ストレスコントロール力
第4位	柔軟性
第5位	創造力
第6位	課題発見力
第7位	計画力
第8位	情況把握力
第9位	発信力
第10位	傾聴力
第11位	規律性
第12位	働きかけ力

「北雄ラッキー株式会社」

優先順位	社会人基礎力12の能力要素
第1位	実行力
第2位	主体性
第3位	ストレスコントロール力
第4位	規律性
第5位	情況把握力
第6位	柔軟性
第7位	発信力
第8位	働きかけ力
第9位	傾聴力
第10位	創造力
第11位	課題発見力
第12位	計画力

「平成24年度　社会人基礎力白書」

まとめ

- 以上の分析の通り、今回、就職を控えた大学生及び企業へのアンケートから社会人基礎力についての貴重な情報を得ることができました。
- 結果は、企業側が求める社会人基礎力に比較して学生側の認知度が極めて低く、又重要視する社会人基礎力の要素も学生と企業の考え方には大きなギャップがあることが確認できました。そこで、社会人基礎力について学生に対する啓蒙の強化が必要と考えます。
- 社会人基礎力は自分自身で身に付けて行く力であって、大学生活、家庭生活等あらゆる場面でレベルアップが必要でありますが、学生へのアンケートでも社会人基礎力が発揮できたと自覚しているケースも多く有り、まず自分の力の強み弱みを自覚することが大事であると思います。
- 企業が求める人材は、経済状況・業種・個別企業等で一様ではなく、就職活動に当っては、希望する企業がどんな人材を求めているのか、事前に情報を把握して極力ミスマッチの無いように努めること大事だと思います。
- 当法人が主催している企業セミナー等で、企業が求める人材の情報を把握するのも良い機会となります。
- 当法人は国立大学法人小樽商科大学の推進するキャリア開発教育に対し、同窓生のネットワークや人材、その関連企業等を活用して積極的に支援しております。
- とりわけ大学の正課科目であるエバーグリーン講座においては、実業界で活躍中あるいは現役を終えた同窓生を講師として派遣し、実務経験を基にした講義によって社会人基礎力の啓蒙、養成への支援を行っております。このような同窓先輩の講義が学生に対する社会人基礎力レベルアップの動機付けになることは間違いありません。
- 今後も当法人は、大学のキャリア開発教育に対する支援及び就職支援活動を通じて得られた社会人基礎力に関する情報を大学側と協力して調査分析し、公開していく所存であります。何卒関係各位のご理解、ご協力をお願い申し上げます。
- なお、本白書の作成に当っては国立大学法人小樽商科大学　商学部社会情報学科准教授　大津　晶氏に多大なご協力を頂きました。大津准教授は小樽商科大学教育開発センターのキャリア教育開発部門長をされており、またビジネス創造センターのCBCフェローの任にあります。
- 大津准教授より次ページ以降に小樽商科大学におけるキャリア開発教育の現状をお寄せいただきました。真に有り難く厚く御礼申し上げます。

「平成24年度　社会人基礎力白書」に寄せて

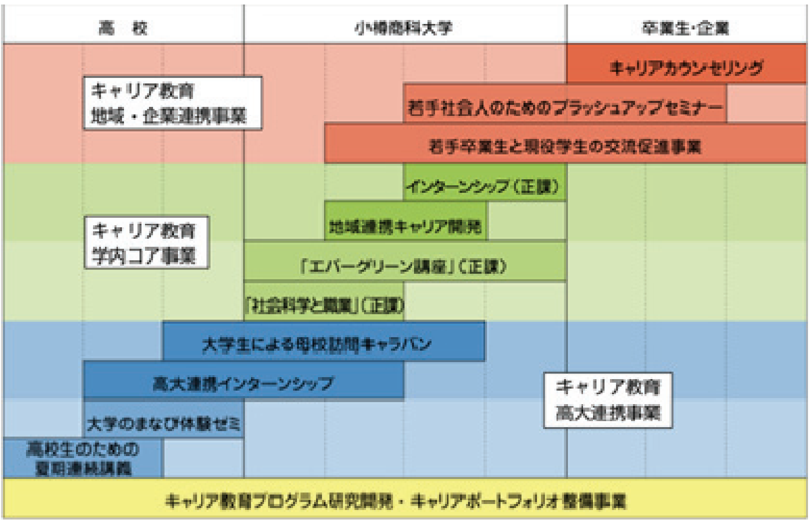
国立大学法人小樽商科大学
商学部社会情報学科　准教授
兼教育開発センターキャリア教育開発部門長　　大津　晶

1．はじめに

- 公益社団法人緑丘会におかれましては、日頃より本学の教育活動や現役学生の就職活動等にたいへん篤いご支援をいただいておりますこと、まずはこの場を借りて御礼を申し上げます。
- 周知のとおり、昨今の厳しい雇用情勢や震災の影響などによる大学生の就職活動に対する不安は決して小さくなく、そのことが短絡的な「就活」となり結果的に本来の大学教育の空洞化につながりつつある面は決して無視できない状況となっています。そのような背景を踏まえ、昨年に引き続き緑丘会が「大学生の社会人基礎力育成」の観点から、企業が求める人材と学生の意識に着目した調査を実施し、その成果を社会人基礎力白書としてまとめ広く公開されることは母校である小樽商科大学のみならず、学生のキャリア支援に取り組む多くの大学に有益な情報を与える極めて公益性の高い取り組みであり、公益社団法人としての社会貢献性の高い事業展開に改めて敬意を表するものです。
- 奇しくもこの取り組みに本格的に着手した時期に合わせて、本学のキャリア教育の取り組みが文部科学省「大学生の就業力育成支援事業（平成22年度～23年度）」に採択、さらに先般同じく文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業（平成24年度～26年度）」に採択され、産業界との緊密な連携に基づいた人材育成という観点から緑丘会と本学の取り組みが全国レベルで注目されることになります。第2冊目となる「社会人基礎力白書」などの連携事業の活動を通じて、今後ますます本取り組みの成果を社会に発信して参りたいと考えております。

2. 小樽商科大学のキャリア教育について （1）

- 平成23年に創立100周年を迎えた小樽商科大学は，建学以来「実学実践」を教育の理念として掲げて参りました。これは次代の社会の様々な場面でリーダーシップを取り得る高度な職業人材を育成して社会に供給することを謳ったものです。本学のキャリア教育のコンセプトもこの教育理念に基づくもので、「充実した大学生活を基盤とし、明瞭な将来の目標とそれを実現するための具体的な努力を自律的に継続できる力の育成」を目標とするものです。本学では平成18年に教育改革のための全学的組織である教育センター内にキャリア教育開発部門を設置し、本学の教育理念に基づいたキャリア教育のあり方について検討ならびに各種の試行事業を開始し、「キャリアデザイン10年支援プログラム」として従来個別に実施していた高大連携事業や就職支援事業などを整理・統合したキャリア教育プログラムおよびその実施体制を整えました（下図）。
- プログラムの名称でもある「10年支援」という部分が本学の取り組みの特徴でありますが、これは10年間支援し続けるということではなく、入学前（高校3年間）から大学の4年間を経て卒業後3年程度までの10年間の視野の中で本学のキャリア教育を位置づけ、高大連携や同窓会連携の各種事業を一貫した考え方で取り組もうという理念を表現したものといえます。加えて本学のキャリア教育では、世代間交流を通じたキャリア支援を重要視しており、そのような意味からも同窓会とはこれまで以上に緊密な協力関係が求められるところです。



図：キャリアデザイン10年支援プログラムの概要